

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4090100191		
法人名	株式会社 かいせい		
事業所名	グループホーム かいせい		
所在地	福岡県北九州市錦町4番26号 (電話)093-331-7722		
自己評価作成日	令和5年8月1日	評価結果確定日	令和5年11月9日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

20代から70代の幅広い年代のスタッフが、家訓「やさしく、たのしく、あたたかく」を目指し、利用者の「こうありたい」を実現することを基本方針とし、介護に取り組んでいる。利用者の、趣味（編み物、絵画、卓球など）に、個別に取り組めるよう、地域の方にもご協力を頂きながら援助している。コロナは落ち着きつつあるが、感染対策は継続して行いながら、少人数でのドライブに行ったり、気候が良い時期には屋上で体操をしたりと、閉じ込められた環境にならないように、外気に触れる機会を持てるように工夫している。少しずつではあるが以前のレクリエーションを行えるように準備をしている。ルーチン化した日々を送るのではなく、季節の変化や楽しみを感じられるよう取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和5年10月3日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームは門司区の中心地域に位置している。3階建ての2、3階が生活空間となっている。屋上は利用者が海峡花火の鑑賞や散歩のほか、体操などの運動に利用している。居室の前にスタンドグラスの額があり、落ち着いた雰囲気を感じられる。職員間の連携もできており、働きやすい環境が作られている。地域との交流も清掃活動などを通じて良好である。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の体操時や、館内放送で家訓を言い、スタッフ、入所者様と共有している。毎日共有することで、実践につなげられていると思う。	理念や基本指針について日々唱和したり、月1回のミーティング時に話し合いを行っている。職員は利用者の尊厳を重視して、時間がかかってもできることがあれば行えるように、見守りの姿勢で支援して理念の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入所者様が入所前から通われていた公民館で行われている卓球クラブに公民館の方のご協力の元参加している。	地域の清掃活動等に職員が参加している。地域の祭りではやぎり隊に参加して、盛り上げている。地域の幼稚園児と七夕やクリスマス行事で交流している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は理美容なども地域の美容室を利用していましたが、高齢のためお店を閉めたり、感染対策のため遠出もできておらず、思うように触れ合うことが出来なくなっているが、港まつりでは、施設前で踊って頂いたが、入所者も思わず一緒に踊ったりし、少しでも地域の方との触れ合いの機会を作っている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は町内の役員の高齢化が進み、町内の方の不参加が状態が続いている。地域包括センターの方の参加を得て、事故防止の考え方、ヒヤリハットへの気づき等の指導していただいている。ご家族の参加は毎回あり、かいせいの状態を理解していただいている。	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、利用者や家族、区役所、地域包括支援センター職員が参加している。会議で出された意見の中で、コロナ禍で外出機会が減り、運動量が減っているため、針灸等の訪問マッサージを取り入れる等、意見を運営に反映させている。	
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月の空室状況や、毎月発送する広報誌などで「かいせい」の今を知っていただく努力をしている。	介護保険関係やインフルエンザの感染防止、おむつ給付手続き等で区役所を訪問している。また、園だよりで事業所の周知を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の取り組み委員会を3ヶ月ごと開催し、スタッフ会議で検証している。また職員は身体拘束に関する外部研修を受け、スタッフ会議で伝達している。	日中、玄関等に施錠はしていない。身体拘束廃止取り組み委員会を設置して、3ヶ月に1度会議を開催している。最近はスピーチロック防止に取り組んでいる。外部研修に出た職員が内部伝達研修を行っている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	7月に外部研修を受け、スタッフ会議にて伝達した。自身の介護を振り返る機会となり、家訓の意味、実践する難しさを再認識できた。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	オンライン研修を受講している。受講した職員からスタッフ会議にて伝達研修を行っている。難しい内容であり職員全員が十分理解するまでには至っておらず課題である。	成年後見制度等の権利擁護についての外部研修を受けた職員が、内部研修会で伝達している。成年後見制度を利用している利用者があり、身近に感じている。マニュアルなどを準備しており、必要に応じて活用している。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学时より、パンフレットの提示、料金表などを説明、入居時には標準契約書・重要事項説明書で説明している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、投稿はほとんどない。面会、電話連絡時や、運営推進会議の時に意見や相談を聴く声掛けをおこなっている。家族から筋力低下を心配する声があり、現在、関節拘縮予防も含め、5名の入所者が訪問マッサージを利用している。	運営推進会議に参加した利用者家族からの要望で、コロナ禍のため外出の減少から運動量が減少しているとの意見があり、散歩や体操、リハビリ等に取り組む等、意見を運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議では全体の課題、フロア会議では各フロアの課題に取り組み、意見交換している。会議以外でも随時スタッフからリーダーに意見が言いやすい環境ができています。	管理者は職員会議時に職員の意見を聴く機会を設けている。水分摂取量が少ない利用者にゼリーなどの活用を行ったり、業務の負担軽減のため夜間職員の採用を行う等、意見を運営に反映させている。また、職員アンケート等で運営面の改善点を検討している。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	パートを含め職員一人ひとりの事情に合わせた働き方に対応し、なるべく職員の勤務希望に沿うように努力している。シフトに支障のないよう人数を増やしている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	年齢幅の大きなシフト体制ではあるが、それぞれの力を発揮できるよう、協力している。シフトも偏りがないように工夫している。	職員の採用選考では年齢、性別、経験の有無に関わらず、採用選考を行っている。定年後も希望があれば1年契約で更新できるよう配慮している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者、職員同士への声掛けに配慮し、お互いを大事にする対応を心掛けている。「家訓：やさしく、たのしく、あたたかく」を実践している。	利用者に関する人権研修を実施している。参加できなかった職員には資料を回覧している。研修資料、研修記録が整備されている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修はスタッフ個々に必要な研修を受講できるよう工夫している。任意で研修を受けるスタッフには、休みがとれるようシフト作成時に配慮している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	zoomでの研修が主となっているが、外部研修時に他の介護職との交流を図っている。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族、ケアマネ、MSWなどからの相談があり、入所の意思が確認でき、初回アセスメント時に、今ご本人が置かれている立場、様々な問題の把握に努めている。関係機関からの医療情報、生活歴、成育歴、薬の情報など、かいせいで生活がスムーズに始められるよう取り組んでいる。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の相談時に、かいせいのパンフレットに基づき、丁寧にかいせいで生活を説明し、不安なことの聞き取り、説明を行い、入所後ご家族が安心できるようスタッフ一人ひとりが、計画書に基づき業務を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所初期における、本人、ご家族の不安や混乱が、最小限になるようアセスメントで把握した情報を元に作成した計画書を各スタッフが理解し、具体的な介護に取り組めるようにしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者1人1人の生活の中で、出来る事、出来ないことを把握しながら、生活の場面場面で、本人の持てる力を発揮できるようにしている。小さな家事（洗濯干し、洗濯たみ、お茶碗洗い、部屋の掃除）など取り組んで頂いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月請求書の発送時、共に発送する広報誌に、その月のご様子を報告している。運営推進会議時に参加されたご家族には意見や相談をする声掛けをしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利便性の良い立地条件から、訪問者も多かった。コロナで面会を制限していたが、現在は居室での面会を行っている。今後も、感染状況に応じて、臨機応変に対応していく。	入居時に家族や親族から、生活歴や生活環境等、趣味や馴染みの場所について聴き取りを行っている。卓球が得意な方に近くの練習場所を紹介する等、関係を継続できるよう働きかけている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格を理解し、トラブルにならないように工夫している。認知症の特性を利用者に理解して頂く事は難しく、接点なるべく短くしてトラブルを未然に避けるように工夫している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	かいせい退去後は、今後の相談にのったり、必要な支援をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	認知機能やADLに個性があり、なかなか意向が確認できない方もいるが、ケアごとに表情を読み取り、必要な援助ができるように工夫している。	利用者の希望や思いを聞いて、利用者本位に努めている。意思表示が難しい利用者については、表情等から推測して意向に添えるよう工夫している。普段の何気ない言葉から、風呂上がりの利用者にノンアルコールビールを提供する等、意向を汲み取っている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントに基づき、本人の好みや趣味、習慣などが、かいせいでの生活後も継続できるよう工夫している。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	勤務に入る前に申し送りを行い、入所者の状態を把握してから勤務に入る様にしている。日々の生活の記録をスタッフ間で共有することによって、その人らしい生活ができるよう工夫している。また、施設内で行うレクリエーションに参加していただく事で、日々の生活に変化がもてるようにしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の情報や伝達事項は日誌に記録し、フロアを超えて職員全員が共有できるようにしている。利用者の日々の変化は、介護記録や申し送りで共有している。毎月のスタッフ会議で、各利用者の問題点について協議し、介護やケアプランに反映させている。	利用者、家族の意向と職員の意見等を合わせ、具体的な内容で作成するよう心がけている。歩行が困難になった利用者には筋力をつける体操を取り入れたり、笑顔が減ってきた利用者には声かけを頻繁にする等、変化があった時点で計画の見直しをしている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の清潔状況、排泄、バイタルチェックなどあらゆる視点から、記録、申し送りをし、状況を共有している。必要時には話し合いをもち、プランに反映させている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々発せられる入所者の一言に、耳を傾け反応できる職員の感性を大切にしている。ちょっとした時間に、「何食べたい」と声掛けに希望を拾い、それをおやつレクに反映させたり柔軟な対応ができるように心掛けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナは落ち着いてきているが、引き続き感染対策を行っている。地域の方の協力の元、公民館での卓球を週1回楽しませている入所者がおり、暮らしを豊かなものにしていく。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には協力医の往診をお願いしているが、在宅時からのかかりつけ医に継続して診察の意向があれば、ご家族にご協力をいただいたり、職員が付き添い受診を行ったり治療が滞らない様にしている。	今までのかかりつけ医や希望する医療機関による受診を支援している。家族と受診時の情報の伝達方法等について話し合い、合意している。内科は週1回、整形外科は2週に1回往診に来てもらい、利用者を診察してもらっている。歯科、眼科は必要時往診に来てもらっている。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の記録、申し送り、連携ノートなどで必要な連携が取れるようにしている。また緊急時の対応についても的確に対応できるようにしている。協力医へ毎週水曜日に入所者の状況を報告し、必要な連携をとるようにしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、サマリーを看護師より提出し、必要な情報を提供している。退院時には、MSWと連携をとり、退院後の生活が滞りなく送れるように、入院中の情報を頂くようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時には、契約書と共に、重度化の指針、看取りの指針なども説明、同意を得ている。状況の変化時には担当者会議を開催し、意向の確認をしている。ご家族が往診に立ち会える場合は立ち会って頂き、医師からご家族へ状態を説明して頂き、今後のことを話し合うようにしている。職員も状態を共有している。	重度化や終末期に向けた方針については利用開始時だけでなく、折に触れて家族への説明を行っている。事業所が自宅と考えている利用者・家族が多く、事業所で看とりを希望する家族が増えており、これまで4名を看とっている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応は、いつでもだれでも同じ対応ができるようマニュアルは準備しているが、実際ともなると不安はある。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、定期的に訓練を行っている。火災に関しては年2回実施している。避難誘導一覧表を作成し、各フロアに掲示、各入所者のドアに掲示し、どのような誘導が必要か分かるようにしている。地域住民は高齢化が進み協力は得られていない。	マニュアルを作成している。年2回、地域住民に呼びかけて避難訓練を行っている。消防署の助言で、避難時間を記録し、より早い避難につなげていくよう努めている。備蓄については、水や食料等3日分を準備している。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴は一人ずつ行いプライバシーに配慮している。他者にとって耳障りな声掛けが何気なく発せられていないか、話し合いの機会を持ち、本来あるべき姿の介護ができるようにしている。	利用者を傷つけない、さりげない言葉かけや対応を目指して、職員同士が互いに注意し、人格を尊重する支援を行っている。入浴は1名ずつ行う等、プライバシーを損ねない支援に努めている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションや行事の参加は、意向の確認をしている。無理強いはしない。「屋上に上がりたいねえ」「お天気がいいから上がろうか～」「あ～気分爽快やね～」など小さな会話、小さな時間の積み重ねを大切にしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるが、自宅では起床時間が遅かった入所者には少し起床時間を遅らせるなどの対応している。気候が良ければ屋上で体操や外気浴などにお誘いするなど行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の衣替えは職員やご家族によって行われている。持参された化粧道具も使用されている。訪問理美容も計画的に行われている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の持てる力により、お盆拭き、お皿洗いなどにご参加いただいている。お彼岸にはおはぎを作ったり、七夕レクやひな祭りレクなどのおやつレクにはご自分でホイップクリームや果物の飾りつけを行ってもらったりしている。	パンが嫌いな人には米飯を、魚が苦手な人には肉に変更する等の配慮をしている。パン食の時には、利用者の希望に応じてコーヒーや紅茶を用意している。イベント時には皆で手作りのおはぎを作って、食事が楽しい時間になるように工夫している。	



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	半調理済みの給食サービスを利用、バランスの良い食事を提供している。食事量、水分摂取量を記録、体重も1ヶ月に2回測定している。嚥下状態にも注意し、食事形態の変更にも柔軟に対応している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。自立の方も、歯科医師の指導の元、必要なチェックを行っている。ケア用品は不潔にならないよう管理している。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、出来るだけトイレで排泄できるように誘導している。オムツ使用の方も、サイズや種類などその方にあった物を選ぶようにしている。尿路感染症や膀胱炎にも注意し、尿量、色、尿臭などの観察を行っている。	排泄感覚がない利用者や、間に合わない利用者には、チェック表を活用しながら早めに声かけをする等、できるだけトイレでの排泄ができるように支援している。便秘気味の利用者には、薬だけでなく、腸に良い飲み物を提供する等している。夜間おむつの利用者はリハビリパンツに変更する等、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排泄の有無、形状を把握をしている。便秘傾向の場合は医師へ報告、相談し、下剤の調節を行っている。自立した方には、声掛けをし排便状況を報告してもらおうと共に、トイレに入った際には観察も行う様にしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	個別に、二人介助やシャワー浴にも対応している。失便などの汚染時には適宜対応し清潔でいられるように注意している。菖蒲湯やゆず湯など、季節の湯も楽しんで頂けるようにしている。	入浴準備は毎日しているが、利用者は週2回の頻度で入浴している。入浴を望まない利用者に対しては、言葉かけや対応の工夫により、一人ひとりに合わせた支援を行っている。季節に応じて、菖蒲湯やゆず湯等、入浴を楽しめるよう工夫している。	入浴の回数や時間について決めてしまわずに、利用者の生活習慣や希望等に合わせた入浴ができる体制づくりや工夫を期待したい。
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室やフロアで休息ができるよう、空調や採光、不快な臭いにも配慮し快適な空間が作れるよう気を付けている。入所者の希望や体調にも配慮して居室での休息の時間も大切にしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の管理の元、配薬が行われている。処方の変更や内服薬の形態にも柔軟に対応して頂いている。服薬介助には二人での名前・日付・時間の確認を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所者の出来る事、取り組みたい事に取り組める機会を作っている。自発的な発言がなかなか得られないが、季節のお菓子作りを計画しレクリエーションに取り入れたり、絵を書くのが好きな入所者には書いてもらったり個別の対応も取り入れている。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	少人数で和布刈公園にドライブに行き、散策をしたりしている。小さな時間を見落とさず、屋上での気分転換を図るように工夫している。	ドライブや散歩等、外出支援を行っている。近所の観光地に出かけたり、家族に声をかけて一緒に外出するなど協力してもらっている。夏の花火大会は屋上で鑑賞している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金として管理している。以前は近くの雑貨屋さんやお菓子屋さんへ買い物にいったが現在は行えていない。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	かかってきた電話は取り次ぎ、また折り返しもしている。電話をかけたいという希望には、ご家族に了解を得て、こちらから電話する事もしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各フロアの壁面構成は、スタッフや入所者、ご家族と共に折り紙などを作成し、季節感を楽しんでいる。ボランティアの画家による絵画の展示もあり、絵を見ての会話も盛んになってきている。空調や臭いにも気を配り、明るく清潔な環境作りに考慮している。	共用部分に利用者とともに季節感のある装飾を行っている。居室への廊下にはスタンドグラス風の照明によって、心地良い空間となっている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースで、入所者同士会話を楽しんだり、歌や動物番組の録画を鑑賞したりして楽しんでいる。入所者によっては会話を好まない方もいらっしゃる、個室で過ごされる方もおり、個別に対応している。時間をみて安否確認、声掛けを行い、孤独にならないよう配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は安心してゆっくり気兼ねなく過せるようにしている。入所者の慣れ親しんだ、テレビやテーブル、ミニ仏壇などが置かれ、落ち着き安心して生活できるようにしている。基本的には自由だが、転倒への配慮の為、整理整頓はスタッフと共に行っている。	ベッドやタンスは施設提供である。テレビ、テーブル、椅子等、利用者の好みや馴染みの物が持ち込まれ、心地良く過ごせるよう配慮している。居室でのテレビ鑑賞はイヤフォンを使用して、他の利用者に迷惑にならないよう配慮している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名前とスタンドグラスが設置され、自分の部屋と分かるように工夫している。ラジオ体操、北九体操など、体を動かすことを毎日の生活に取り入れている。個別には、ルームマーチ、廊下の往復など、機能維持にも取り組んでいる。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2／3くらいと		
				③家族の1／3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2／3くらいが		
				③職員の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2／3くらいが		
				③家族等の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の体操時や、館内放送で家訓を言い、スタッフ、入所者様と共有している。毎日共有することで、実践につなげられていると思う。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入所者様が入所前から通われていた公民館で行われている卓球クラブに、公民館の方のご協力の元参加している。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は理美容なども地域の美容室を利用していたが、高齢のためお店を閉めたり、感染対策のため遠出もできておらず、思うように触れ合うことが出来なくなっているが、港まつりでは、施設前で踊って頂いたき、入所者も思わず一緒に踊ったりし、少しでも地域の方との触れ合いの機会を作っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は町内の役員の高齢化が進み、町内の方の不参加が状態が続いている。地域包括センターの方の参加を得て、事故防止の考え方、ヒヤリハットへの気づき等の指導していただいている。ご家族の参加は毎回あり、かいせいの状態を理解していただいている。		
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の空室状況や、毎月発送する広報誌などで「かいせい」の今を知っていただく努力をしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の取り組み委員会を3ヶ月ごと開催し、スタッフ会議で検証している。また職員は身体拘束に関する外部研修を受け、スタッフ会議で伝達している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	7月に外部研修を受け、スタッフ会議にて伝達した。自身の介護を振り返る機会となり、家訓の意味、実践する難しさを再認識できた。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	オンライン研修を受講している。受講した職員からスタッフ会議にて伝達研修を行っている。難しい内容であり職員全員が十分理解するまでには至っておらず課題である。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学时より、パンフレットの提示、料金表などを説明、入居時には標準契約書・重要事項説明書で説明している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、投稿はほとんどない。面会、電話連絡時や、運営推進会議の時に意見や相談を聴く声掛けをおこなっている。家族から筋力低下を心配する声があり、現在、関節拘縮予防も含め、5名の入所者が訪問マッサージを利用している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議では全体の課題、フロア会議では各フロアの課題に取り組み、意見交換している。会議以外でも随時スタッフからリーダーに意見が言いやすい環境ができています。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	パートを含め職員一人ひとりの事情に合わせた働き方に対応し、なるべく職員の勤務希望に沿うように努力している。シフトに支障のないよう人数も増やしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	年齢幅の大きなシフト体制ではあるが、それぞれの力を発揮できるよう、協力している。シフトも偏りがないように工夫している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者、職員同士への声掛けに配慮し、お互いを大事にする対応を心掛けている。 「家訓：やさしく、たのしく、あたたかく」を実践している。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修はスタッフ個々に必要な研修を受講できるよう工夫している。任意で研修をうけるスタッフには、休みがとれるようシフト作成時に配慮している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	zoomでの研修が主となっているが、外部研修時に他の介護職との交流を図っている。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族、ケアマネ、MSWなどからの相談があり、入所の意思が確認でき、初回アセスメント時に、今ご本人が置かれている立場、様々な問題の把握に努めている。関係機関からの医療情報、生活歴、成育歴、薬の情報など、かいせいでの生活がスムーズに始められるように取り組んでいる。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の相談時に、かいせいのパンフレットに基づき、丁寧にかいせいでの生活を説明し、不安なことの聞き取り、説明を行い、入所後ご家族が安心できるようスタッフ一人ひとりが、計画書に基づき業務を行っている。		



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所初期における、本人、ご家族の不安や混乱が、最小限になるようアセスメントで把握した情報を元に作成した計画書を各スタッフが理解し、具体的な介護に取り組めるようにしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者1人1人の生活の中で、出来る事、出来ないことを把握しながら、生活の場面場面で、本人の持てる力を発揮できるようにしている。小さな家事（洗濯干し、洗濯たみ、部屋の掃除）など取り組んで頂いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月請求書の発送時、共に発送する広報誌に、その月のご様子を報告している。運営推進会議時に参加されたご家族には意見や相談をする声掛けをしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利便性の良い立地条件から、訪問者も多かった。コロナで面会を制限していたが、現在は居室での面会を行っている。今後も、感染状況に応じて、臨機応変に対応していく。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格を理解し、トラブルにならないように工夫している。認知症の特性を利用者に理解して頂く事は難しく、接点なるべく短くしてトラブルを未然に避けるように工夫している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	かいせい退去後は、今後の相談にのったり、必要な支援をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	認知機能やADLに個性があり、なかなか意向が確認できない方もいるが、ケアごとに表情を読み取り、必要な援助ができるように工夫している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントに基づき、本人の好みや趣味、習慣などが、かいせいでの生活後も継続できるよう工夫している。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	勤務に入る前に申し送りを行い、入所者の状態を把握してから勤務に入る様にしている。日々の生活の記録をスタッフ間で共有することによって、その人らしい生活ができるよう工夫している。また、施設内で行うレクリエーションに参加していただく事で、日々の生活に変化がもてるようにしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の情報や伝達事項は日誌に記録し、フローを超えて職員全員が共有できるようにしている。利用者の日々の変化は、介護記録や申し送りで共有している。毎月のスタッフ会議で、各利用者の問題点について協議し、介護やケアプランに反映させている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の清潔状況、排泄、バイタルチェックなどあらゆる視点から、記録、申し送りをし、状況を共有している。必要時には話し合いをもち、プランに反映させている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々発せられる入所者の一言に、耳を傾け反応できる職員の感性を大切にしている。ちょっとした時間に、「何食べたい」と声掛けに希望を拾い、それをおやつづくりに反映させたり柔軟な対応ができるように心掛けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナは落ち着いてきているが、引き続き感染対策を行っている。地域の方の協力の元、公民館での卓球を週1回楽しませられている。入所者があり、暮らしを豊かなものにしていく。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には協力医の往診をお願いしているが、在宅時からのかかりつけ医に継続して診察の意向があれば、ご家族にご協力をいただいたり、職員が付き添い受診を行ったり治療が滞らない様にしている。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の記録、申し送り、連携ノートなどで必要な連携が取れるようにしている。また緊急時の対応についても的確に対応できるようにしている。協力医へ毎週水曜日に入所者の状況を報告し、必要な連携をとるようにしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、サマリーを看護師より提出し、必要な情報を提供している。退院時には、MSWと連携をとり、退院後の生活が滞りなく送れるように、入院中の情報を頂くようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時には、契約書と共に、重度化の指針、看取りの指針なども説明、同意を得ている。状況の変化時には担当者会議を開催し、意向の確認をしている。ご家族が往診に立ち会える場合は立ち会って頂き、医師からご家族へ状態を説明して頂き、今後のことを話し合うようにしている。職員も状態を共有している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応は、いつでもだれでも同じ対応ができるようマニュアルは準備しているが、実際ともなると不安はある。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、定期的に訓練を行っている。火災に関しては年2回実施している。避難誘導一覧表を作成し、各フロアに掲示、各入所者のドアに掲示し、どのような誘導が必要か分かるようにしている。地域住民は高齢化が進み協力は得られていない。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴は一人ずつ行いプライバシーに配慮している。他者にとって耳障りな声掛けが何気なく発せられていないか、話し合いの機会を持ち、本来あるべき姿の介護ができるようにしている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションや行事の参加は、意向の確認をしている。無理強いはない。「屋上に行きたいねえ」「お天気がいいから上がろうか～」「あ～気分爽快やね～」など小さな会話、小さな時間の積み重ねを大切にしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはある。気候が良ければ屋上で体操や外気浴などにお誘いするなど行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の衣替えは職員やご家族によって行われている。持参された化粧品も使用されている。訪問理美容も計画的に行われている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の持てる力により、お盆拭き等を行っていただいている。お彼岸にはおはぎを作ったり、七夕レクや雛祭りレクなどのおやつレクにはご自分でホイップクリームや果物の飾りつけを行ってもらったりしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	半調理済みの給食サービスを利用、バランスのよい食事を提供している。食事量、水分摂取量を記録、体重も1ヶ月に2回測定している。嚥下状態にも注意し、食事形態の変更にも柔軟に対応している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。自立の方も歯科医師の指導の元、必要なチェックを行っている。ケア用品は不潔にならないように管理している。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、出来るだけトイレで排泄できるように誘導している。オムツ使用の方も、サイズや種類などその方にあった物を選ぶようにしている。尿路感染症や膀胱炎にも注意し、尿量、色、尿臭などの観察を行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排泄の有無、形状を把握をしている。便秘傾向の場合は医師へ報告、相談し、下剤の調節を行っている。自立した方には、声掛けをし排便状況を報告してもらおうと共に、トイレに入った際には観察も行う様にしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	個別に、二人介助やシャワー浴にも対応している。失便などの汚染時には適宜対応し清潔でいられるように注意している。菘蒲湯やゆず湯など、季節の湯も楽しんで頂けるようにしている。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室やフロアで休息ができるよう、空調や採光、不快な臭いにも配慮し快適な空間が作れるよう気を付けている。入所者の希望や体調にも配慮して居室での休息の時間も大切にしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の管理の元、配薬が行われている。処方の変更や内服薬の形態にも柔軟に対応して頂いている。服薬介助には二人での名前・日付・時間の確認を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所者の出来る事、取り組みたい事に取り組める機会を作っている。自発的な発言がなかなか得られないが、季節のお菓子作りを計画しレクリエーションに取り入れたり、絵を書くのが好きな入所者には書いてもらったり個別の対応も取り入れている。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	少人数で和布刈公園にドライブに行き、散歩をしたりしている。小さな時間を見落とさず、屋上での気分転換を図るように工夫している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金として管理している。以前は近くの雑貨屋さんやお菓子屋さんへ買い物にいていたが現在は行えていない。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	かかってきた電話は取り次ぎ、また折り返しもしている。電話をかけたいという希望には、ご家族に了解を得て、こちらから電話する事もしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各フロアの壁面構成は、スタッフや入所者、ご家族と共に折り紙などを作成し、季節感を楽しんでいる。ボランティアの画家による絵画の展示もあり、絵を見ての会話も盛んになってきている。空調や臭いにも気を配り、明るく清潔な環境作りに考慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースで、入所者同士会話を楽しんだり、歌や動物番組の録画を鑑賞したりして楽しんでいる。入所者によっては会話を好まない方もいらっしゃり、個室で過ごされる方もおり、個別に対応している。時間をみて安否確認、声掛けを行い、孤独にならないよう配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は安心してゆっくり気兼ねなく過せるようにしている。入所者の慣れ親しんだ、テレビやテーブル、ミニ仏壇などが置かれ、落ち着き安心して生活できるようにしている。基本的には自由だが、転倒への配慮の為、整理整頓はスタッフと共にやっている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名前とステンドグラスが設置され、自分の部屋と分かるように工夫している。ラジオ体操、北九体操やYouTubeでの体操を取り入れて、体を動かすことを毎日の生活に取り入れている。個別には、ルームマーチ、廊下の往復など、機能維持にも取り組んでいる。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2／3くらいと		
				③家族の1／3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2／3くらいが		
				③職員の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2／3くらいが		
				③家族等の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		